

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校
強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

(1) 次期学習指導要領を見据えた教育課程の編制と授業の充実を図る。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。

(2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール (GLHS) としての学力向上に係る内容の充実を図る。

(3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。

ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。

イ 国公立大学志望 90% という生徒の希望進路の実現を支援する。

※国公立進学率を 80%以上を引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。

(4) 英語コミュニケーション能力の育成

ア 英語 4 技能 (聞く、話す、読む、書く) をバランスよく身につけるさせるとともに、TOEFL 仕様の授業の導入をとおり、実践的英語力の向上を図る。

(5) グローバル化対応・ICT化対応の教育の推進

ア 授業における ICT化及びアクティブ・ラーニングを推進する。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校

(1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。

※1 年次部活動加入率 90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。

(2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。

(3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

(1) 授業における課題研究活動とボランティア体験活動など、社会貢献活動の充実と発展を図る。

(2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問 (受入) 等により、国際感覚のさらなる向上に努める。

4. 地域・関係諸機関との連携が充実した学校

(1) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

特に生徒に関しては、地域ボランティア活動を積極的に推奨する。

※ 生徒のボランティア参加率を 50%以上を引き上げる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「学力の充実と進路希望の実現」を重点目標として取り組んだ。 ・課題にあげていた「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目が肯定的評価 80.4% (昨年 78.2%、3 年前 62.5%) で 3 年連続改善した。「先生方は分かりやすく、興味深い授業をしている」(生徒対象)の肯定的評価が 89.5% (昨年 87.3%)、「ICT 等を活用して教え方に工夫している」(生徒対象)の肯定的評価が 90.7% (昨年 86.73%)。授業改善が進み、授業への満足度が高まっている。</p> <p>【生徒指導等】・「総合的にみて、学校は生徒の学力向上、人間的成長のために尽力していると言える」(生徒対象)の肯定的評価は 89.2% で 2.6 ポイントアップ、平成 24 年度から課題としていた「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)の肯定的評価も 81.2% (昨年 80.7%、24 年度 53.6%) であり、徐々にポイントを上げている。引き続いて様々な行事や研修の工夫、日常の指導により、豊かな人間性の涵養に努める。</p> <p>【学校運営】・「校長は学校運営についての考えを明らかにし、指導力を発揮している(教職員)の肯定的意見は 88.3%(3.63 ポイントアップ)、「学校の課題につい</p>	<p>第 1 回 (平成 29 年 7 月 14 日実施)</p> <p>○ 学校教育自己診断において、生徒側の評価と教職員の評価に乖離が見られることがある。このことは教職員が学校の課題や生徒状況について、緊密にコミュニケーションをとることで改善が図られる。情報を共有する仕組み、仕掛けを検討すべき。遅刻件数については、不登校生徒などが増えていることも影響がある。件数を減らすことにはばかりとらわれず、一人ひとりに寄り添い、背景を理解し、支援していく指導をめざすべき。[授業改善と絡めて、授業バディシステム、スーパーティチャー制を試験的に導入する。他教科の先生と話を増やすとともに、本校の教育課題 (例えば、普通科のあり方など) について、議論する機会を作りたいと回答]</p> <p>第 2 回 (平成 29 年 11 月 29 日実施)</p> <p>○ オール文理学科への移行について、スーパーサイエンスコースの設置には期待する。1 年で大学との連携授業や講演などをたくさん聞いて、志を高めて、2 年次からのコース分けする仕組みもよい。また、ホームページや学校パンフレットも一新され、非常に見やすく、9 月の学校説明会で、いち早く、30 年度入学生の教育内容を公表、説明したので、受験生の混乱はない。[全員が文理学科の教育内容を行うこと (水平展開) と伸びる生徒をさらに伸ばすこと (垂直展開) の両立をめざしたいと回答]</p>

府立大手前高等学校

<p>て日常的によく話し合っている」(教職員)の肯定的意見も 88.2% (6.4 ポイントアップ)。トップダウンしつつも、教職員が課題を共有し、解決策を考え、校長に提案する体制が定着してきた。</p>	<p>第3回(平成30年2月14日実施)</p> <p>○ 生徒自治会役員との意見交換・議論により、自主性、自律性が育まれていることを感じた。今後は生徒の能力を様々な場面に活用する仕組みにもチャレンジしてほしい。[生徒の自主自律の精神とSSHなどの取組みのコラボレーションを進める学校が増えている。学校行事だけでなく、課題研究、校外研修などにも生徒が中心になって取り組んでいけるよう検討していくと回答]</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p>	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。 企画経営会議(首席、研究開発部長、国際教育部長、情報部長)が中心となり、①～④に組織的に取り組む。</p> <p>①日常的な授業見学や研究事業の実施、授業内容・技術等検討会による教員の授業力の向上を図る ※授業アンケートの実施[7月・12月]とその分析及び課題解決</p> <p>②学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や制度の改善、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③校内教職員研修の充実 ※経験の少ない教員に対する研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経験豊かな教員による個別研修[年間のべ10回以上] 2. 定時制教員との合同研修[年間3回] 3. 他校教員との合同研修[年間3回] <p>※進路指導に係る研修の開催</p> <p>④校外・海外研修への参加増進 ※教職員の70%が海外研修・宿泊研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・アメリカ・イギリス・東京・京都等)</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取組みの充実を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実 ②全国規模の数学発表大会(マスマフェスタ・8月)・中学生対象数学講座実施を含めた取組みの充実 ③グローバルリーダーズハイスクールとしての取組みの充実を図る。 ※各種研修、サマースクール(2年京大研修(7月)、1年阪大研修(8月))、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。 	<p>・授業アンケートによる肯定的評価 84%以上 (28年度は、2回平均 82.9%)</p> <p>・学校教育自己診断での教職員・生徒の肯定的評価 80%以上及び実施内容 (28年度は、78.2%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度 (28年度は、個別研修10回・合同研修4回実施、進路研修は32回実施した。それらを上回る事が目標)</p> <p>・参加割合の達成度 70% (28年度は 68%が参加経験)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)、コンクール・コンテスト受賞、学校教育自己診断によるSSH行事の肯定的評価 70%以上 (28年度 生徒 61.4%、保護者 76.1%)</p>	<p>ア・授業改善のためのパディシステム、スーパーティーチャー制を導入した。他教員の授業見学し、自ら振り返る機会が増え、授業アンケートの校長による個別指導と併せて、授業満足度の向上につながった。授業満足度 86.3% (2回目のみ)、2回平均 84.5%。また学校教育自己診断「わかりやすく興味深い授業をしている」(生徒対象)も 89.5% (2.2ポイントアップ)した。更なる向上を図りたい(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目は肯定的評価 80.4% (昨年 78.2%)。習熟度別授業や組織的に放課後、土曜等を活用して行う指名補習など個に応じた指導を行い、改善した。(◎)</p> <p>・経験の少ない教員に対する研修について、経験豊かな教員の指導による個別研修はのべ8回実施、定時制との合同研修は1回、他校との合同研修は4回実施した。進路指導に係る校内研修は各種31回実施できた。次年度も継続して実施したい。(○)</p> <p>・学校行事等に係る海外研修は10名、宿泊研修には本年度は22名が参加した。本年度所属教員のうち、70.3%が参加経験あり。目標を達成、教員の資質向上につながっている。(○)</p> <p>イ・本年度も様々な事業を展開し、いずれも大きな成果を得た。</p> <p>①の「サイエンス探究」発表会(7月)においては、64本の研究発表があり、そのうち1本は、学生科学賞は最優秀賞(大阪市長賞)を受賞した。②の「マスマフェスタ」(8月)では、全国61校が参加し、参加者アンケートでは肯定的評価がほぼ100%であった。また中学生対象のマスカンパ(数学講座:12月)では11校19名が参加した。③京大阪数学コンテスト、日本数学オリンピック予選では表彰を受け、日本情報オリンピックでは本選出場を果たした。さらに京都大学サイエンスフェスティバル大阪府予選優勝、大阪大学SEEDSプログラムでJST理事長賞(全国2位)を受賞した。SSH行事の肯定的意見(生徒)71.9%、(保護者)89.2。(◎)</p>
<p>2 豊かな人間性を涵養する学校</p>	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成</p> <ol style="list-style-type: none"> ①あいさつの励行と服装指導 ②遅刻指導の充実 全教員当番制で遅刻指導を実施 年間2000回以内目標 ③あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「命の尊さや社会のルールについて学ぶ」機会を増やす。 ④教育相談体制の充実と学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間12回) 	<p>・達成度、保護者、外部からの評価</p> <p>・2000回以内の達成 (28年度は2411回)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価が83%を超える (28年度80.7%)</p> <p>・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート(相談件数28年度73回)</p>	<p>ア・学校教育自己診断「学校は子どもに生命を大切に心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(保護者対象)における肯定的評価は90.1%(28年度89.5%)で向上した。あいさつ励行・服装についても改善された。(○)</p> <p>・遅刻指導は、3029回で昨年度より増加した。学校協議会においては、心身に配慮が必要な生徒や不登校傾向の生徒に寄り添う指導も必要であると指摘されている。年間目標の2,000回には遠く届かなかった。次年度は、過去3年の平均2684回をめざすとともに、保護者やカウンセラーとの連携など、生徒支援の観点を重視しながら遅刻指導を行いたい(△)</p> <p>・学校教育自己診断「生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(教職員対象)の肯定的評価は92.2%で昨年1.3ポイントアップ、同項目(生徒対象)でも81.2%で昨年1.5ポイントアップ(○)</p> <p>・スクールカウンセラー配置も継続され、生徒・保護者等対象年間87件の相談があり、適切に対応した。(○)</p>

府立大手前高等学校

<p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>	<p>(3) 社会貢献活動の推進</p> <p>ア 地域や社会の課題を発見し、グループで解決に向けて挑戦する人材を育成する。</p> <p>イ グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組み、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 社会貢献活動の充実</p> <p>①すべての教科において課題研究活動を導入。</p> <p>②ボランティア体験活動への参加。</p> <p>イ 国際交流の推進</p> <p>①海外生徒派遣研修（マレーシア、シンガポール、アメリカ）や姉妹校（英国ペンブライス高校）との交流、来日高校生との交流の実施</p> <p>②イングリッシュキャンプ（3月）[大阪大学在籍の留学生との交流等]の開催</p>	<p>ア</p> <p>・実施の有無と充実度（授業アンケート等）の向上 （授業満足度 28年度 84.5%）</p> <p>・生徒の参加率 50%と充実度（アンケート等） （28年度参加率 49.7%）</p> <p>・実施の有無と充実度（学校教育自己診断・アンケート等）の向上 ※項目「国際教育の取組みは評価できる・役に立つ」（28年度保護者 91.0%、生徒 77.7%）</p>	<p>ア・学校教育自己診断「自分の考えをまとめたり、発表する力が身についた」（生徒対象）の肯定的評価が 74.3%で昨年より 5.1ポイントアップ。生徒の授業満足度（2回目）肯定的意見が 86.3%で、昨年より、1.8ポイントアップした（◎）</p> <p>・自治会、部活動が中心となってボランティア活動を実施。また、多数の生徒が文化祭での NPO 団体のボランティア活動に参加。地域でのボランティア活動が定着してきたので、次年度も継続して実施していきたい。（参加団体 16 団体 570 人：参加率 52.7%）（○）</p> <p>イ・海外研修は豪州サイエンス研修（30 名）、シンガポール語学研修（60 名）、ケンブリッジリーダーシップ研修（10 名）、英国交流（10 名）の 4 つのプログラム（合計 110 名）の主目的を明確にして実施。</p> <p>・イングリッシュキャンプは、生徒 60 名とネイティブ 12 名が参加して研修を行った。アンケートによる生徒満足度 100%</p> <p>・学校教育自己診断「国際教育の取組みは評価できる・役に立っている」の肯定的意見が保護者 91.1%（昨年 91.0%）、生徒 80.2%（昨年 77.7%）で高い評価を得ている（◎）</p>
--------------------------------	---	---	--	---